

DSO会長就任のご挨拶

(国研) 森林研究・整備機構理事の矢野と申します。ダイバーシティ・サポート・オフィスの会長を務めておりました前任の柳田理事が3月末で退任致しましたので、後任理事の私がDSO会長を引き継がせて頂くことについて、去る5月25日～6月1日の間に臨時総会（メール審議）が開催され、会長就任のご承認を頂きました。新型コロナウイルス感染症対策の関係で、通常の年とは異なる状況下での会長就任となり、関係の皆様へのご挨拶も十分にできないことをご容赦頂きたいと思っております。

今回の新型コロナウイルス感染症は、当初は私たちの暮らしや仕事、学校などにこれほど広範に大きな影響を及ぼすものになるとは思っていませんでした。皆様も様々な形でご苦労なさっていると思いますが、一方で、在宅勤務をはじめとする様々な働き方を工夫せざるを得ない状況になってしまったことで、ダイバーシティの取組の必要性を改めて認識する契機にもなったと感じています。今回のような事態が大なり小なりこれからも起こり得ることを想定して、柔軟に対応できる組織や仕組みづくりを進めていくことが必要になると思っております。

DSO会長として、次の総会までの限られた期間となりますが、参加機関の皆様と手を携えてダイバーシティ推進活動を進めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 理事 矢野 彰宏

イベント開催報告

■ 森林整備センター・森林保険センター 令和元年度第2回ダイバーシティ研修 ■

介護の備え～仕事と介護を両立するために

【日時】 2020年2月25日（火）

【場所】 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター（神奈川県川崎市）

【講師】 若橋 綾 氏（株式会社ツクイ／介護支援専門員）

【題名】 介護の備え～仕事と介護を両立するために～

講演内容

2月25日に株式会社ツクイより介護支援専門員の若橋綾先生を講師にお招きし、「介護の備え～仕事と介護を両立するために～」と題してご講演いただき、整備センターおよび森林保険センターから81名が参加しました。以下に内容について簡単に紹介します。

1. 高齢化の推移

令和元年におけるわが国の高齢化率は28.1%であり、令和3年には37.7%にまで達する見込みであることから、いかにして

健康寿命（医療や介護が必要でない期間）を延ばすかが大事になってきます。

2. 介護（介護保険）に関する相談窓口

認知症を発症したり、何でもない自宅での転倒から寝たきりになってしまうなど、突然介護が必要になることがありますので、事前に相談窓口を知っておくと良いでしょう。

■ 市区町村

担当窓口（介護保険課、高齢者福祉課等など）において、介護保険制度や保健福祉に関する総合的な相談が受けられます。

■ 地域包括支援センター

専門知識を持った職員が、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるように介護（予防を含む）サービスや保健福祉サービス、日常生活支援などの相談に応じています。

※介護を受ける人が居住する地域を管轄するセンターに限ります。

（次頁へ続く）

(前頁からの続き)



3. 介護サービスの申請から認定まで

介護サービスは、65歳以上の人または40～64歳で特定の病気で介護が必要になった人が利用できます。市区町村の担当窓口もしくは地域包括支援センターで利用申請を行い、訪問調査員による認定調査（現状確認）を経て、1ヶ月程で以下のいずれかに認定されます。

■非該当（自立）

介護保険サービスは受けられませんが、市区町村が提供する介護予防サービスを利用することは可能です。

■要支援

入浴、排せつ、食事などの日常生活で支援が必要であるが、適切な対策を行うことで心身機能の改善や悪化の予防が可能な状態。（要支援1～2の2段階）

■要介護

入浴、排せつ、食事などの日常生活を自分で行うことが難しく、他者による介護が継続して必要な状態。（要介護1～5の5段階）

要介護と認定された場合、市区町村の担当窓口もしくは地域包括支援センターで居宅支援事業所のリストをもらい、ケアマネージャー（介護支援専門員）を選定します。

※要支援、要介護の区分や所得に応じて、利用できるサービスや支給限度額、利用料金の負担割合が変わります。

4. ケアマネージャーについて

ケアマネージャーとは、利用者の希望や心身の状態に合ったサービスを利用できるよう計画を立てる介護サービスの窓口役のことです。業務経験や保有する資格によって得意分野があります。

また、問題が発生したときに素早く対応してもらえよう、自宅の市町村と同じ（あるいは近隣の）居宅介護支援事業所を選ぶと良いでしょう。

5. 介護を行う家族への注意点

介護がはじまると、親子の力関係が変わってきます。特に介

護者が男性の場合、親への当たりが強くなる傾向にあるそうです。介護を行う際は、親の自尊心を傷つけないよう言葉を選ぶことが大事です。また、親の不安な気持ちを理解し、一緒に考え、行動することを心がけましょう。

6. 仕事と介護を両立するために

共働きの世帯が当たり前になり、息子が親の介護を行うケースが増えています。男性介護者の場合、完璧を目指そうとするあまり限界まで頑張ってしまう、その結果、突然離職してしまう人が多いとのことなので注意が必要です。なお、仕事を続けながら介護を行うポイントは以下のとおりです。

- ・完璧を目指さない。（自分で介護をしすぎない。）
 - ・介護について、家族間で早めに話し合っておく。（夫婦だけでなく親とも。）
 - ・ケアマネージャーを信頼し、何でも相談する。
 - ・介護を深刻に捉えず、休日はデイサービスを利用するなどして、自分の時間を確保する。
 - ・職場に家族の介護を行っていることを伝える。
- 職場の上司は、介護休業などを取得しやすい雰囲気づくりに努め、定期的にフォロー面談を行うなど配慮すること。

7. 感想

講演のテーマである「親の介護」は、多くの方が向き合うこととなる問題ですが、一口に「親の介護」と言っても状況（同居・別居）や状態（病気など）によって様々なケースが想定されます。

今回学んだことは、介護の相談窓口や介護保険で受けられるサービスなど基礎的な部分が多かったのですが、親の介護に直面した際に慌てることなくどのような対応をすれば良いか、日頃から考える良い契機になったのではないかと感じました。

森林研究・整備機構 森林整備センター
ダイバーシティ推進担当 記

※本セミナーは森林総研、育種センター等においても録画視聴により3月中旬に実施されました。



令和2年度男女共同参画週間の取り組み

森林研究・整備機構 森林総合研究所 ダイバーシティ推進室では男女共同参画週間（6月23日～29日）の取り組みとして、職場や日常においてダイバーシティを身近なものと捉えるためのポスター展示を行ないました。今年のキャッチフレーズは「**そっか。いい人生は、いい時間の使い方なんだ。**」"ワクワク・ライフ・バランス"、展示一つ目のテーマは「発見！ジェンダー」として公益財団法人・日本女性学習財団から12枚のポスター提供を受けました。



また、今年は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、多くの職員が自宅等で勤務せざるを得ない状況となりました。そこで、ダイバーシティ推進室では「自宅勤務をしてみても良かったところ、困ったところ」と題して、森林総研（つくば）で事前に意見を募集し、それを纏めたポスターも展示しました。以下はそのポスターからの抜粋です。

良かったところ

- ・自宅勤務のため子供と過ごす時間が増え、親子の会話が増えました。
- ・共働きですが、お互いのシフトに合わせて、家事や育児の分担割合を変更しました。
- ・研究を効率的に進め、業務の整理を進める機会になりました。
- ・文献を読み込むことができたり、論文に集中して執筆できたりしました。
- ・仕事場所の確保のため、部屋がきれいになりました。
- ・電話をとることもなく、昼食や終業時間を気にせず、ゆとりをもって仕事に取り組みました。
- ・通勤時間が無くなり、時間に余裕ができたため、朝夕に家事を詰め込む必要がなく、体力的に楽になりました。
- ・テレワークはフラットな人間関係構築につながるかもしれないと感じました。
- ・今回のコロナ禍が収束しても、時々自宅勤務を選択できると、生産性が上がるのではないかと思います。

困ったところ

- ・仕事とプライベートの切替が難しく、仕事に集中できず緊張感に欠ける時がありました。
- ・ほとんど動かないので運動不足になりがちでした。→（対策）休憩時間に近所を散歩やストレッチをしました。
- ・研究所で契約しているオンラインジャーナルが全く使えませんでした。→（対策）出勤時に所内でダウンロードして持ち帰りました。
- ・自宅勤務だけでは予定していた実験や調査がストップしてしまい、実験で育てている樹木も心配でした。
- ・自宅ですれない業務があったり、機密情報のあるメールは読めなかったりしました。→（対策）週1度、あるいは適宜出勤しました。
- ・出勤は極力少なくして、出勤時は混む時間を避けるように心掛けました。

そのほか（意見・感想）

- ・学校からネットで届く課題に追われて子供も忙しく、意外と自分が相手しなくちゃいけないということはなかった。
- ・緊急事態宣言が出てから、高齢の両親の住む実家に行くことができなかった。しかしながら、その分、SNS等を利用して両親や兄弟との連絡が密になった。
- ・公共交通機関を使って通勤はソーシャルディスタンスを取ることがなかなか難しい。

Pick up

「森林・林業における男女平等 (gender equality)」

森林総研がメンバーとなっている国際森林研究機関連合 (IUFRO) のウェブサイトにて、「A Focus on Gender Equality in Forestry」という記事が出ていました (URLは文末)。IUFROでは男女平等に関する特別作業班 (task force) を立ち上げており、今回の記事にはその活動の主旨やこの分野における問題点、SDGsの一環としての扱いなどが述べられています。

その中で、森林・林業と人間との関わりにおいてジェンダーへの認識を持つことの重要性や、森林に関わる研究を進めていく上でジェンダーとそれを取り巻く環境の相互作用・関係性を十分に理解する必要があることを強調しています。これは森林・林業の分野のみならず、科学技術系の研究開発全般に共通することであり、こうした一つ一つの分野でジェンダー、男女平等の認識を高めていくことが、今後ますます重要になるのではないのでしょうか。

なお、IUFROでは5年に一度世界大会 (World Congress) を世界各地で開催しており、昨年のブラジル大会ではジェンダーに関するブースが設けられていました (写真)。中央の「Mulheres na Floresta」はポルトガル語で「森の女性たち」を意味し、多くの写真やポスターが展示されていました。



2019年IUFRO世界大会@ブラジル
(森林総研 沼尻さん提供)

URL : <https://www.iufro.org/news/article/2020/06/18/spotlight-79-a-focus-on-gender-equality-in-forestry/>

【DSO事務局@森林総研】

DSO事務局からのお知らせ

5月~6月に掛けてメールにより開催したDSO臨時総会により、新会長として森林機構の矢野理事が選出されました。参加機関の皆様、臨時総会へのご協力ありがとうございました。会長就任の挨拶を1ページに掲載しましたのでご覧いただければと思います。

ニュースレターへの記事をご投稿ください!

「DSO Newsletter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして原則毎月最終週に発行しております。掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

- ・シンポジウムやセミナー、講演会など、イベントのお知らせ
- ・最近行なわれたイベント報告、あるいは参加報告
- ・最近取組中のこと
- ・その他、お役立ちや関連情報

宛先 : dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

参加機関内外への当Newsletterの紹介も歓迎いたします。バックナンバーはDSOホームページにてご覧いただけます。

ダイバーシティサポートオフィスのご案内

ダイバーシティ・サポート・オフィス (DSO) は、研究教育20機関をメンバーとして、平成19年より男女共同参画などダイバーシティに関わる活動を連携して推進しています。主な活動の一つとして、参加機関相互のイベント等の機会提供、情報交換を行なっています。当初は科学技術振興調整費の支援を受けてスタートしましたが、現在はイコールパートナーシップでメンバーが対等に運営する、より開かれたDSOとして活動しています。

*DSOメンバー：産業技術総合研究所、森林研究・整備機構、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、千葉大学、筑波大学、神戸大学、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、岡山大学、宇宙航空研究開発機構、大阪大学、量子科学技術研究開発機構、建築研究所 (加入順)